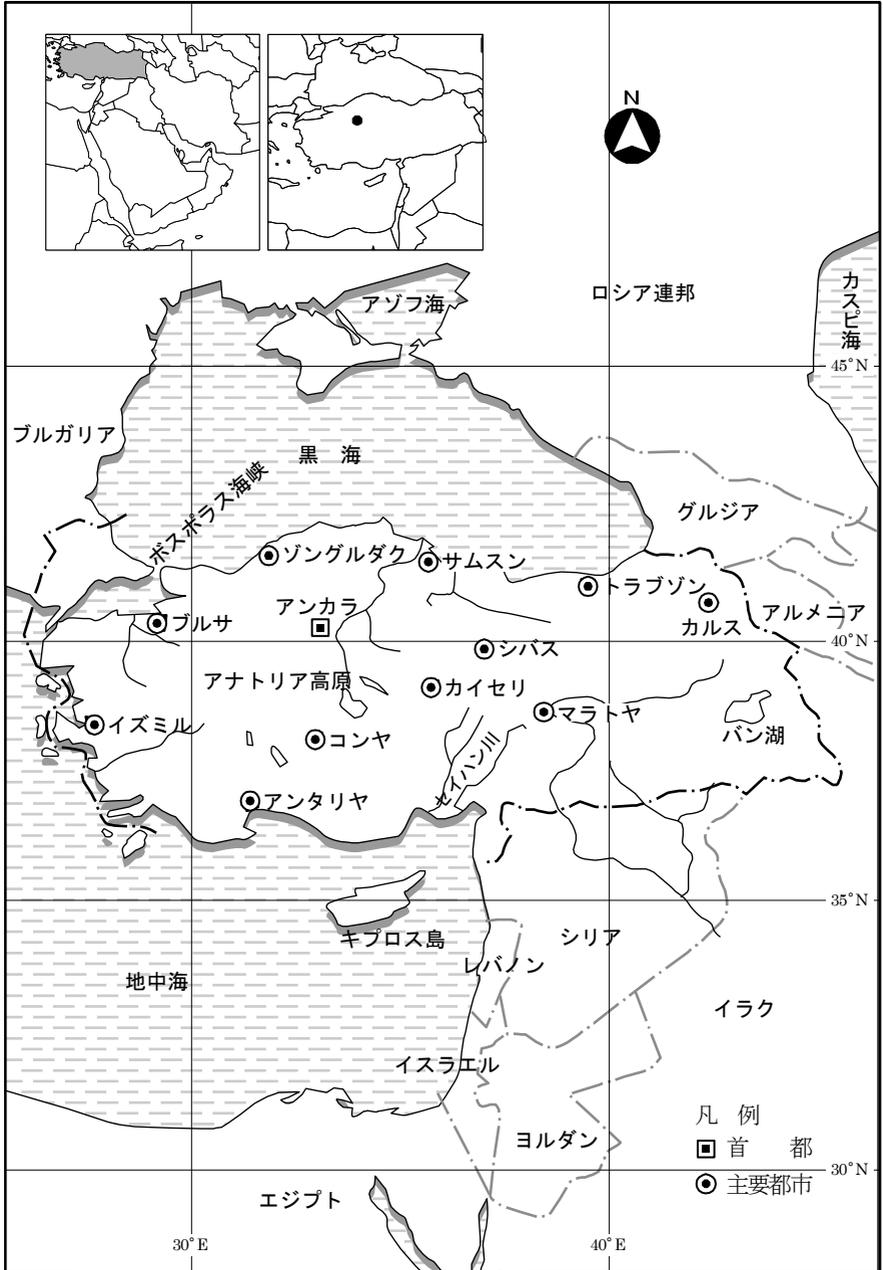


トルコ共和国



(一般指標)

国名 (英名)	トルコ共和国 (TUR : Republic of Turkey)		
国土面積 万 ha	7,748 (日本の約2倍)		
人口 万人	7,450.8 人口密度 95.1人/km ² (2012年)		
首都名(英名)	アンカラ (Ankara)		
首都人口 万人	409.7 (2009年)		
主要言語	トルコ語(公用語)、クルド語、アゼルバイジャン語等		
宗教	イスラム教97.5%、ギリシャ正教、カトリック		
国連加盟年月	1945年10月		
通貨単位	トルコ・リラ 1米ドル=2.0386 (2013年7月)		
国民総所得 : GNI 億米 ^{ドル}	7,199 (2010年)		
一人当りGNI 米 ^{ドル}	9,890 (2010年)		
主要産業	観光業、工業(自動車等)		
日本から輸出 億円	2,455 (2011年) (一般機械、乗用車、電気機器等)		
日本の輸入 億円	411 (2011年) (衣類・同付属品、まぐろ、紙巻きタバコ)		
土地利用 万ha	耕地	2,429	(31.6%) (2009年現在)
	森林	1,122	(14.6%) (2009年現在)
	牧場・牧草地	1,462	(19.0%) (2009年現在)
度量衡	メートル法		
祝祭日	1月1日元旦、4月23日国民主権と子供の日、5月1日 メーデー、19日アタテュルク記念・青少年とスポーツの 日、8月30日戦勝記念日、10月29日共和国記念日 移動祝祭日 : 断食明け祭/砂糖の祭、犠牲祭		
気候	マルマラ海、地中海、エーゲ海の沿岸地方は地中海性気 候Csで、夏季は高温乾燥、冬季は温暖で雨量が比較的多 い。アナトリア内陸部は大陸性でステップ気候BS。黒 海沿岸地方は四季を通じて雨がある。 首都アンカラ(標高891m、年平均気温11.6℃、湿量指 数90.6、年降水量403mm)。		

(森林の指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	11,334
森林率	%	15.0
森林変動率 (2005-2010)	%	1.1

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	1,526
ha 当たり森林蓄積	m ³	135

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	3,418
森林面積に対する割合	%	30.0

(森林所有者)

公的機関	%	100.0
民間	%	-

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	822
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	8.0

(森林・林業行政組織)

トルコ国の森林及び環境行政を担うのは森林・水管理省 (MFWM) であり、2003年に林業省を再編して設置された。省内の4部局の業務は以下のとおりである。

- ・林業総局—違法伐採対策、森林火災対策、森林病中害対策、森林経営、技術開発、
林地管理、普及教育、広報、森林調査
- ・造林、土壤保全総局—造林、治山、原野改良、種苗生産、支援
- ・共有林総局—共有林事業
- ・国立公園・野生動植物総局—国立公園、自然公園、自然保護地区管理、野生動植物資源等保全、狩猟管理

林業総局は独立的機関であり、他の3局はスタッフ的な機関である。下部機関は、森林局直属の27の地方事務所と241の県事務所、及び他の3局の活動を担う9地方事務所である。この他、林業省の直轄機関として、11の森林研究所、8つの土壤試験所、森林山村共同体研究所、林産業研究所、林業大学等が置かれている。

(森林・林業政策)

林業分野のマスタープラン(1990~2009年)とトルコ共和国5ヶ年開発計画では、現在及び将来における林業活動の政策、ガイドライン、原則、目標について以下のよう
に記している。

- ①森林は、木材、非木材などの林業生産、自然環境の保護と改善、レクリエーション
や風致的な機能面から、社会と住民のニーズを満たすための持続的原則に従って
経営されてゆくものとする。
- ②劣化した森林と非林地において植林や林分改良を行うことにより森林資源を増加、
改善してゆくものとする。
- ③生態的バランスの保護と改善、森林の持つ機能を最大限にすることによる国家繁
栄の視点から森林を管理計画し、増殖、発展させるものとする。
- ④森林保護プログラムは、森林火災やエロージョン、森林破壊に対して適切かつ効
果的方法を定めるために発展してゆくものである。
- ⑤国立公園、自然公園、多くの保護地域、保護林を特別に大切にす。
- ⑥私有林や地域共有林における活動は、森林地域住民の福祉改善と同時に森林のよ

り効率的な保護と改善を保障するために国家によって支援されるものとする。

⑦必要な方策による推進計画は、民間セクター及び地域社会への支援を保証する。

現在でも効力のある森林法は 1956 年施行されたものである。トルコの森林法は 1956 年以降何度も改訂されたが、基本的な考え方は変わっていない。森林保護を基本とするものである。生物多様性については言及していないし、国立公園とか保護林についての規定は極めて少ない。社会とか NGO の森林管理への貢献についての規定はない。また、森林内に工作物を設置することについては禁止する規定となっているが、定住とかは禁止されていない。そのように、持続性の考え方は森林法の一部とはなっていない。

(森林の現況)

FRA2010によれば、2010年における森林面積は全国土面積の15%にあたる1,133万haを占めている。1990年から2010年までの間に森林面積は165万ha増加している。年平均では8.3万ha、年率では0.85%の割合で増加している。生産力のある森林はその半分以下とみられる。残りの森林は生産力が低く、劣化した高木林、矮林、灌木林等で構成されている。主な森林は、黒海、エーゲ海、地中海沿いの山脈、山岳に集中している。国の東部、北東部、南東部にはかなり広い地域に灌木林がみられる。

トルコの森林はその構成から、以下のように分類されている。

①北部トルコ黒海沿岸地域

森林は、針葉樹／落葉広葉樹からなる混交林が優占している。主な樹種は、商業的価値の高いトウヒ (*Picea orientalis*)、モミ類 (*Abies spp.*)、マツ類 (*Pinus nigra*, *Pinus sylvestris*)、ブナ (*Fagus orientalis*)、ナラ類 (*Quercus spp.*) が含まれる。

②地中海・エーゲ海沿岸地域

森林はマツ類 (*Pinus nigra*, *Pinus brucia*)、レバノンスギ (*Cedrus libani*)、モミ (*Abies cilisica*) の一種、ナラ類 (*Quercus spp.*) 等が生育し、針葉樹の占める割合が高い。

③マルマラ海沿岸地域

ナラ類 (*Quercus spp.*) ブナ (*Fagus orientalis*)、マツ類 (*Pinus nigra*, *P. brucia*)

が優先種で落葉広葉樹の占める割合が高い。

④内陸の中部および東部アナトリア地域

マツ類とカシ・ナラ類が優先種であるが、低質化したナラ類 (*Quercus spp.*) 林が多い。

(人工造林)

FRA2010によると、全森林面積のおよそ30%にあたる342万ヘクタールが人工造林地となっている。最近5年間では年平均16万haの造林実績がある。主な植栽樹種はマツ類 (*Pinus nigra*, *Pinus brucia*) である。トルコの造林事業は「造林・土壌保全総局」のもとで実施されている。

造林事業(育種、育苗、植林、保育、天然林施業等)のレベルは、一定の水準にあり、特に政府苗畑などは良く整備されている。しかし、平均植林面積が3~5万haと低いことと、過去のマツ類の人工造林地の生育状況(形質及び成長量)が概して不良であること(天然更新林は良好である)など、改善の余地がある。

植林事業等に使用される苗木の生産も「造林・土壌保全総局」で実行されている。

林業省は全国に76ヶ所の苗畑を管理し、年間2~3億本の苗木を生産している。そして、165ヶ所の採種園、338ヶ所の採種林を管理している。最近の動向としては民間による苗木生産を奨励し、各種のインセンティブを苗木生産のために付与している。

(天然林施業)

林業省による森林管理計画に定められた年許容伐採量は高木林で7,948千m³、矮林で7,947千m³である。最近の生産量の傾向として、高木林では年伐採許容量を超え、矮林では年伐採許容量を下回っている。

(林産業)

トルコの年間丸太生産量は2,000万m³、うち工業用木材は年間1,570万m³の生産量である。

一方、木材製品の消費は建設需要、人口増加、所得向上などにより年々増加している。更に、家具製造が盛んであり、また、ヨットの建設も経済成長に貢献している。このように、トルコは旺盛な木材需要のために多量の木材を輸入している。2010年に

は 142 万 m³ の丸太、66 万 m³ の製材品、19 万 m³ の合板を輸入している。

違法伐採が依然として課題であるが、しかし、近年熱源が木材から天然ガスに変わってきていることから違法伐採は減少してきている。

トルコの製材工場は大小 1 万を超え、製品別には、Istanbul-Izmit は製材品、単板、及びパネル生産、Inegol は家具生産、Bolu & Kastamonu は丸太、Ordu と Denizli & Izmit は家具生産を行っている。

チップボードの生産能力は近年著しく増加しており、2009 年 24 工場で 400 万 m³ の生産能力がある。2010 年には更に 150 万 m³ の生産能力が増える見込みである。

合板の生産能力は 2005 年には 40 万 m³ あったが、中国からの安価な合板の輸入により生産能力は減少している。政府はアンチダンピング調査の後、m³ 当たり 240～300US ドルの輸入関税を中国製品に課した。現在の生産能力は 25 万 m³ である。

家具産業はトルコの急成長産業の一つであり、現在では家具の生産国であり、輸出国である。3 万の家具工場があるが、従業員 100 人以上の工場は 150 に過ぎない。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	10,345	3,974	358	1,626	5,958	16,303
1990	9,796	3,625	705	1,630	5,960	15,756
1995	8,534	5,467	1,558	3,720	10,745	19,279
2000	5,510	5,178	3,369	1,882	10,429	15,939
2006	5,831	5,676	4,747	1,830	12,253	18,084
2010	4,859	8,321	7,027	347	15,695	20,554

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m³、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	141.6	16,104.1	0.7	194.8
製 材	66.4	13,229.0	12.0	1,489.6
合 板	19.0	18,019.8	4.5	1,290.7

- 出典：1. USDA Foreign Agricultural Service, Global Agricultural Information Network, 2010, Forest Products Report for Turkey
Turkey, forestry and Antalya
2. EFI Mediterranean Regional Office - EFIMED Turkey, forestry and Antalya
(http://www.efimed.efi.int/portal/events/annual_meeting/efimed_am_2010_-_antalya/turkish_forestry_and_antalya/)
3. Sustainability in Turkish Forest Legislation and Administration
(<http://www.fao.org/docrep/ARTICLE/WFC/XII/0072-C1.HTM>)
4. Ministry of Forest and Water Management (Turkey) From Wikipedia
([http://en.wikipedia.org/wiki/Ministry_of_Forest_and_Water_Management_\(Turkey\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Ministry_of_Forest_and_Water_Management_(Turkey)))

